

平成19年度事後評価結果（平成20年 3月）

[研究開発課題名] ユビキタスネット社会を実現するためのVIIC基盤技術に関する研究開発

[委託機関名] 株式会社SOBAプロジェクト

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>本提案の前身である産学官連携SOBAプロジェクトを発展させた本研究開発では、その基盤技術の開発および改良、さらにSOBA city/mieruka/Web API などの無償・有償のサービス開始が達成できている。中でも、SOBA web APIは類似製品に対する差別化が可能な技術であると判断され、全般的に当初の目標達成ができていると評価できる。しかしながら、独自開発の技術要素が十分ではないため、より一層の技術的優位性を図る努力が望まれる。また、競合他社システムに対する優位性の明確化や、対象ユーザの拡大（企業ユーザばかりでなく、個人、家庭、携帯端末）に向けての努力も望まれる。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>これまでの技術成果を、「VIICポータルサイト」サービスと「VIICソフトパッケージ」製品として事業化する計画である。ブロードバンド環境を活用した対面を重視した双方向のビジュアルコミュニケーションの市場発掘を狙っている。潜在性の高い新しい市場に当該の新たなサービスと製品を、市場動向調査やマーケティングリサーチの結果を織り込みながら導入期、成長期、成熟期の3フェーズに分けて着実に展開しようとしており、市場創成型の事業化計画として一定の評価ができる。</p> <p>資金計画は、会社設立時の資金調達先2社を想定しており、中長期の事業化計画の説得により資金調達が期待できる計画である。</p> <p>収益の期待度については、市場予測データから2016年での市場規模の1%の獲得を目指し、年100サイトづつ新規顧客を獲得するとして収益を予測している。しかし、具体的な顧客の開拓や絞込み（土業事業者、会議や仮想店舗等のASP事業者、SI事業者等）、販売チャネルの形成や他社との連携を含めた事業化体制の補強が、引き続き必要と考えられる。一方、実績としては、これまでに、「VIICポータルサイト」サービスに関して、受託者は、類似のサービスについて既に182の有償利用者を獲得しており（2007年11月末）、事業化の基本的なモデルについては一定の収益を上げてきている。</p> <p>以上から、本事業化では、ベンチャ企業として、潜在性の高い新たな市場に新たなサービス・製品を投入しようとしており、不足の経営資源を関係パートナーとの連携によって補強することにより、これまでの実績を活かした事業化が期待できる。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。